

日本赤十字九州国際看護大学/Japanese Red

Cross Kyushu International College of

Nursing

Development and application of educational tools that enable students to gain a glocal perspective : an attempt to learn from the Thai students' worldview

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 守山, 正樹, 鈴木, 清史, 山本, 孝治, 菅原, 直子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15019/00000676

著作権は本学に帰属する。

報告

「ひとりを看る目、その目を世界へ」を実現できる教育ツールの開発と適用；
タイの学生の世界観に学ぶ試み守山 正樹¹⁾ 鈴木 清史¹⁾ 山本 孝治¹⁾ 菅原 直子²⁾

本研究では東南アジアの中核として発展するタイ王国の看護学生に着目し、日本の学生と比較しつつ、人を見る目を世界へと段階的に拡大・発展させられる教育ツールの開発を試みた。出発点はかつて守山らが提案した子どもの環境観を探る対話誘発型質問系列 WIFY である。まず WIFY 改を試作し、2017年5月に本学初年次学生で試行した。その後、英語とタイ語への試訳を経て WIFY-LRNW を完成させ、同年8月タイ赤十字看護大学で10名の学生に試行した。さらに2018年3月、再度タイを訪問し、前回と同一の学生に、過去7か月の生活や社会の変化を語ってもらった。WIFY-LRNW は変化を内省・言語化する上でも、グローバル化の状況を意識する上でも有効であった。双方の国で WIFY-LRNW を問いかけることにより、学習者の視野が広がり、世界と自国地域を同時に意識し、自己と他者の存在に覚醒するグローバル化が進むことが期待される。

キーワード：世界観、批判的意識化、教育ツール開発、タイ、看護学生

I 始めに

本学（日本赤十字九州国際看護大学）は今日のグローバル社会を見通し、海外でも活躍できる看護職の育成に力を入れている。方向性は「ひとりを看る目、その目を世界へ」の標語に表現されている。

では人を見る目を世界へと広げ、目前の人・人々に対してだけでなく、グローバルな視点を育て、国境を越えて健康を意識できるようになるためには、学習者にどのように働きかけたらよいただろうか。

本研究では東南アジアの中核として周辺諸国への影響力を拡大しつつあるタイ王国の看護学生に着目し、本学の学生と比較しつつ、人を見る目を世界へと段階的に拡大・発展させられる教育ツールの開発を目指した。

II アプローチの考え方

自他を知り、視野を広げ、自国の社会的・文化的な状況を振り返り、さらに他国の社会的・文化的な状況を理解する上で、大切なのは何だろうか。本試行では筆者（守山）がかって開発した WIFY を出発点として、授業やゼミを通して学生の発言と交流の支援を試み、よりよい支援ができるように、問いかけの仕方を改良することを試みた。

1 問いかけの方法

守山らが1998年に提案した WIFY^{1,2,3)} を「問いかけの方法」の原型・出発点とした。WIFY は守山らが子どもたちの環境観を探る試みを行う中でたどり着いた対話誘発型の質問系列である。3種類の

状況（日々の生活、地域、世界）をイメージした上で、基本となる質問「あなたにとって無くなったら困る大切なものは何ですか？」を問いかける。この質問は英語で表記すると「What is important for you?」となり、What 以下の英文を構成する単語の頭文字（W・I・I・F・Y）より、WIFY（ウィッフィ）と命名された。

WIFY は守山が、日本の幾つかの小学校を訪問し、子どもの視点を明らかにするための最適な質問を模索するアクションリサーチから得られたものである¹⁾。守山は既に WIFY を日本国内だけでなく、中国本土、台湾、ベトナム、タイの学校で試行している^{2,3)}。

本研究では、看護学生における内省・リフレクションの支援を目指し、タイと日本の赤十字看護大学で学ぶ学生が、グローバルな視点を身に付けるための教育ツールとしての展開を試みた。本学及びタイ赤十字看護大学の学生を対象として、ゼミなどの機会に WIFY を問いかけることでの取材を重ね、学生の反応に合わせて改良を続けるアクションリサーチの方法で開発を進めた。

2 “研究倫理”とは異なる“取材と交流支援”の倫理

本試行は、より良い支援と交流の方法を求めて行われた。現状の授業やゼミでの交流をよりよいものにしていくための WIFY による試みは「探索的な側面」と「育成的な側面」を持っている。探索や育成は、未知のことがらに光を当てたり、対象者が育つことを期待する点からいえば、いわゆる研究、あるいは教育と共通する点を含んでいる。しかし通常

1) 日本赤十字九州国際看護大学

2) 名古屋第二赤十字病院

の「仮説検証型あるいは理論構築型の研究（結果は研究者の論理構成の正しさやデータ処理の適切さにより評価される）」や「知識・技術供与型の教育（結果はレポートや試験の点数で評価される）」とは大きく異なる。

探索的な側面からいうと、WIFYでは、質問者からのWIFYの問いかけに対し、問いかけられた対象者が「自分の生活では何が大切か」を振り返り、様々なことを想起する。自分自身のことであっても、気づきが大きく、自分自身の探索といえる。最終的なWIFYの目標は、対象者がその人らしい物の見方・感じ方に気づき、それを表現することである。質問者の位置づけは、研究者というよりはファシリテーターである。各対象者のWIFYによる発言は、あくまでも、その人固有のもの、その人らしい世界観を映し出すナラティブとして大切にされる。質問者が、第三者的・研究者的な視点で、そのナラティブをデータとして分析したり、そこから特定の項目を抽出するようなことは想定していない。

育成的な側面からいうと、WIFYでは、問いかけられた対象者は、その問いかけを振り返り、さらに他の学習者と交流することで、確かに何らかの知識を得る。しかしファシリテーターの位置づけは、通常の授業者ではない。授業者は教育目標を立て、その測定可能なゴールに向けて教育を行う。他方、ファシリテーターは支援を行うが、学習者の到達を評価するわけではない。学習者はWIFYによる問いかけと交流によって、さまざまなことに気づいていくが、その気づきは、しばしばファシリテーターの予測を遥かに超えた地点に至る。

このような経緯から、本試行においての倫理は、WIFYを問いかける場面においてはファシリテーターとしての倫理⁴⁾を大切にしたい。また各学習者が感じ考えたことをWIFY用紙に書き込み、また学習者同士がWIFY用紙を元に交流し、またその交流の結果気づいたことを書き留め、交流会で発言した内容を、できるだけそのまま記録する過程においては、取材の倫理⁵⁾を大切にしたい。またWIFYを用いた振り返りや交流を看護教育の場（看護大学の講義室やゼミ室）で行った事実を考慮し、本試行の全過程において「看護学教育における倫理指針」⁶⁾を遵守した。

Ⅲ 「WIFY改」の試作と日本での試行

1998年に守山が提案した子ども向けの対話誘発型質問系列WIFY（WIFYの原型）のワークシートを出発点とし、それを看護学生が使うことを念頭に、改訂・開発の作業を進めた。本学・学生用に試作した“WIFY改”を図1に示す。

WIFYの原型では出発点となる日々の生活から始め、言葉を介して、振り返りと交流を通して、イメージや認識や理解を育てるように問いかける¹⁾。このWIFYの育てる機能は、大地に芽を出し上方

図1. Wify改ワークシート（日本語版）

に向かって育つ植物のイメージと似ている。育てるイメージを明確にするため、WIFY原型では1・2・3の記入欄を、ワークシートの下部から上部へと積み上げるように配置している。今回の開発ではWIFY原型の記入欄構成は活かした上で、その上に記入欄4を配置し、WIFY1（日々生きる）→WIFY2（地域に生きる）→WIFY3（世界に生きる）と展開して来たりフレクシオン（内省）の流れを、さらに高次の段階WIFY4（看護に生きる）へと発展させることを目指した。

このWIFY改は、2017年6月の基礎力総合ゼミの時間に本学初年次学生110名に対して試行した。ゼミではWIFYワークシートの記入欄の番号に従って、学生にリフレクシオンを促すように問いかけ、気づいた内容を記入してもらった。

内容を公開することへの同意が得られた学生3名の記入事例をもとに、問いかけに対して学生(a, b, c)がどのように反応し、さらに交流に至ったかを示す。

>> WIFY1 「あなたの一日を振り返ったとき、大切なことは何ですか？」

- a 「トイレ、携帯、お金、食べ物、ベッド」
- b 「テレビ、歯みがき、天気確認、ご飯作る、お風呂」
- c 「家族・友達、ご飯、挨拶、空、家（家の鍵も）」

>> WIFY2 「あなたの暮らす地域を振り返ったとき、大切なことは何ですか?」

- a 「家、イオンモール、天神 (福岡の繁華街)、乗り物、コンビニ」
- b 「田舎、バス、ゆめタウン、人ごみ、緑」
- c 「家で育てているトマト、筥崎宮、バス、パン屋さん、スーパー」

>> WIFY3 「あなたの世界を振り返ったとき、大切なことは何ですか?」

- a 「日本、世界、地球、宇宙、食べ物」
- b 「自然、そろそろ福岡、大都市の仲間入り、外国人多い、国際空港、食べ物」
- c 「自然 (森、海、空)、地球 (人、動物、植物、生物)、世界の国々、平和、宇宙、水、光」

WIFYの原型ではWIFY3までで問いかけを終えていた。内省する際の視点を広げ、人を取り囲む環境を意識することが目標であるなら、問いかけはWIFY3までで十分である。対象者は、日々の生活(WIFY1)、地域での生活(WIFY2)を経て、世界の中での生活(WIFY3)を視野に入れる。他方、今回のWIFY改においては、四番目の質問(WIFY4)として看護師としての大切さを付け加えた。看護を学ぶ学生にとって、看護師は自己実現の一つの形であり、ここに至るまでに積み重ねて来た「大切さ」の認識(WIFY1, 2, 3)の最終段階と位置付けられる。

>> WIFY4 「将来、看護師として働くことを思い浮かべたとき、大切なことは何ですか?」

- a 「人間関係、病院、患者、医者、相談相手」
- b 「オペ看、コミュニケーション能力、自立、海外旅行、Road Trip」
- c 「責任、自分に対しての厳しさ・ストイックさ、人に対してのやさしさ、必要とされる看護師、技術力の高さ」

WIFY1, 2, 3と発展して来た学生の振り返りは、WIFY4を問うことで、現在の生活世界から将来の自分のあり方へと向かい始めた。

学習者に自己の将来像を問いかけることは、「夢目標」として本学の教育でも重視されているが、自分の夢目標をどう設定したらよいか悩む学習者が多い。WIFY4は、自分にとっての将来の大切さを展望する点で夢目標に似ている一方で、WIFY1・2・3の発展形として4を捉えるため、より自然な形で無理なく将来を語るができる。WIFY4を夢目標として活用することは今後の課題と考えられる。

いづれにしても、WIFYでは(原型でも改でも)何が大切かという質問を重ねることで、対象者がまず自分自身を段階的に振り返る。その後、振り返りを自分だけに留めず、周囲の人々と交流し共有することで、振り返りが一段と広く深くなる。今回の開発で特に重視したのは、交流・共有の段階をどのように支援するかであった。支援が効果的であれば、交流・共有がさらに進み、「ひとりを看る目、その目を世界へ」が現実化すると考えられる。では実際

はどうだっただろうか。

本学のゼミでは、110名の学生はWIFY4までの内省を終えたのち、30分ほど周囲の学生と交流・共有の時間を持ち、さらに気づいたことをワークシートに書き込んだ。その内容を先ほどの3名の学生(a, b, c)の記述として以下に示す。

>> 「WIFYで交流して気づいたこと、分かったことは何ですか?」

- a 「入学してから二か月たって、話したことがある人、話したことのない人の知らない部分がWIFYによって見えてきました。とても面白いと思います。WIFYで、知らない人とも関係が広がり、知っている人としても、もっとお互いを知ることができます・・・」
- b 「友達のWIFYをみて、人それぞれ書いていることに個性がつまっていて、とても面白かったです。WIFYは定期的に行うことで自分を見つめなおす機会となり、今の自分の反省や未来の自分を考え、目標を立てるのに最適だと考えます・・・」
- c 「私のWIFYから、私は理想の看護師像に届いていない現状を理解していて、だからこそ向上心を持っていると分かりました・・・友達にどうしてこの回答になったのかを聞いていの中で、その人物の新たな一面が知れました・・・」

Ⅳ WIFY改・英語版の試作、およびバンコクでの最初の試行

本学の基礎力総合ゼミにおける前項のWIFY試行後、WIFY改・英語版とタイ語版を試作した。2017年7月にタイ側の協力者に英語版とタイ語版を送付し、意見を聞いた。

その後、2017年8月7日にバンコクに行き、タイ赤十字大学を訪問し、WIFY改のこれまでの開発や使用の経緯をタイ側の協力者と共有した。また協力者からの紹介を得て、同大学の国際交流責任者、および研究責任者と面会し、WIFY改の意味や国際交流への寄与の可能性を説明し、意見交換を行った。意見交換の中で、研究責任者より以下のコメントを得た。

「WIFYという名称は、核となる質問What is important for you?の頭文字を取っており、何が問われているのかが分かりやすいです。ただし、WIFYの表記だけだと、その問いかけの背後にある意図・目標が見えて来ません。今、WIFYのこれまでの話を聞いて、WIFYの本質がリフレクションに基づいたNarrative Story Tellingであることが理解できました。この本質が読み取れるようなネーミングが必要ですね!」

上記のコメントを受け、WIFY改という呼び名に代えて、WIFY-LRNW (Living Reflection and Narration Worksheet)を採用した。

2017年8月9日午後、タイ赤十字大学で10名の学生にWIFY-LRNW（英語版）を使用した振り返りと相互の対話・交流を行ってもらった。

事前の説明として「①日本の学生の振り返りに役立ったWIFYがタイでも役立つかを、今回タイの学生たちの協力を得て明らかにしたいこと、②今回の振り返りの内容を日本の学生にも紹介できるように、録音やメモで記録を残したいこと、③記録内容は個人情報を除いた上で、今後の交流に役立てたいこと、④記録内容を本学の紀要に発表し、他の教職員にも交流の意味を理解してもらいたいこと」の4点を話し、同意を口頭で得た。

その後、学生たちはWIFYによって問題なく生活を振り返り交流することができ、思いついた内容を英語またはタイ語でワークシートに書き込んだ。以下には3名の学生（A、B、C）の記入内容を和訳して示す。

>> WIFY1「あなたの一日を振り返ったとき、大切なことは何ですか？」

- A「電話（アプリ）。友だちや家族と話す。食べる。好きな映画を見る。友達とバレーボール。」
- B「朝食を食べる。シャワーを浴びて歯を磨く。音楽を聴く。友達と話す。両親に電話する。」
- C「シャワーを浴びる。運動する。朝食を料理する。本を読む。テレビを見る。」

>> WIFY2「あなたの暮らす地域を振り返ったとき、大切なことは何ですか？」

- A「バンコクのがが家。スーパーマーケット。映画館。大学のサークル。ショッピングモール“Siam Paragon”」
- B「木々。お寺。子どもたち。犬たち。カフェ。」
- C「新鮮な空気。騒音が無いこと。私の学校。病院。患者。近くのショッピングモール。」

>> WIFY3「あなたの世界を振り返ったとき、大切なことは何ですか？」

- A「お金。旅行者用のアトラクション。外国での仕事の間。日々の生活での安全。人々。」
- B「法律。平和。インターネット。助け合い。人々。」
- C「コミュニケーション。心が広いこと。環境。人類。友達」

次にWIFY4を聞くはずであったが、WIFYの説明に意外に時間を要したために省略し、交流に移った。

>> 「これから15分は記入済みのWIFYワークシートにより、他の人と交流してください。気づいたことは何ですか？」

- A「全ての人は話すことが必要です。誰もコミュニケーション無しでは生きられません。世界の全ては、どの場所にも人々がいます。私にとって大切なことは救うこと・残すこと、私の命・家族・お金・仕事も。私にとって何が幸せか。」
- B「アイデアを友達と交換することで、一人ひと

りの大切なことが違うことを知りました。私達は『私達の生活の中で最も重要なことであることを知ることができること』、『本当の幸せを見つけることを可能にするもの』を探し続けています。時々、私たちは自分自身を知らずに、すでにそれ（大切なこと）を見ています。」

C「私は多くの人が違う考えをしていると思います。私の国に、もっと木々や緑の場所があつて欲しいです。そうすれば空気や音（騒音）は今より良くなります。そして私たちは全ての人のために、世界を助けられると思います。」

このバンコクでのWIFYの試行では、WIFYの説明（英語）に要した時間が20分、学生それぞれがWIFY用紙に書き込む時間が20分などに加え、タイ側の協力者による補足説明（タイ語）15分などに時間を取られ、WIFY4を問う時間が無くなってしまった。またワークシート記入後の交流の時間が15分程度と、本学における試行に比較して交流の時間が十分とは言えなかった。しかし学生たちの記述を見ると、WIFYによって気づいたことが多く、WIFYを聞くことが大きな意味を持っていることが推察された。

本学においても、今回のバンコクにおいても、WIFYを3段階で問うことで、学生が現在の生活を振り返ることは、達成されたと考えられる。一方、今回は残念ながら省略したWIFY4の問いかけは、3段階での現状把握に基づいた上で、意識を将来に向ける効果がある。3段階に留まらず、WIFY4を問いかけ、彼らの将来の看護師像にむかってNarrative Story Tellingを続けることは、今後の課題と考えられた。

V バンコクでの二度目の試行、学生たちが語った半年間の社会変化

2018年3月12日、再度タイ赤十字看護大学を訪問し、前回と同一の学生（10名）の協力を得て、過ぎ去った半年を振り返り、変化を意識化してもらった。ほぼ半年前（正確には7か月前）と現在の違いに気づけるように、まず学生たちに、各自が前回記入したWIFYワークシートのコピーを配付し、それが自分の記入であることを確認した上で、新たなことを大切と考えるようになったかなど、何らかの変化があれば、前回のワークシートに追加して記入するよう指示した。ワークシートのチェックが終わった後に、現状や変化を語ってもらった。発言は学生たちと協力者の同意を得た上で録音し、日本に帰ってから文字起こしを行った。一回目の試行の結果として前項に示した学生3名のうち2名（A、B）の発言（和訳）内容を事例として以下に示す。

>> WIFY1 「あなたの一日を振り返ったとき、大切なことは何ですか？ 現在だけでなく、この7か月間の変化について気づいたことを語ってください。」

A 「自分が何を信じているかわからないことがあります。スマホの画面だけを見ているので、周りのことは何も考えない。今のストレスの事を忘れられます (笑)。チェラロンコン大学の新生を迎えるグループに入って楽しくしていますが、その人達はこちら (タイ赤十字大学) のところには来ません。グループの活動には基本の2日間だけ毎回参加しています。後輩の面倒をみたり、いろいろ教えてあげたりもしているけど、ほとんどの活動はコンパです。現在もグループの活動は続けています。以前 (7か月前) は、最初はスポーツをやっていましたが、今は眠る事にかえました。なぜなら仕事時間が多くなり、休息時間が少なくなってきたからです。とにかく眠りたいです。実習をしなければなりません。」

B 「私にとっては朝起きて、ご飯を食べることが大切です。それらは、誰にとっても基本の大切なことじゃないですか？ 朝食食べられないなんて大変 (笑) その後は、シャワーをあびて歯を磨くことも大切です。それをしないとその後気持ち悪い。私は、パンよりごはんの方がいいです。パンはおなか一杯になりません。ご飯はパワーアップできます！ あと、シャワーと歯磨きはしないと、汚いと思います、気持ち悪いですし。その次に大切なのは音楽です。音楽なしの人生は考えられません。どんな歌でもどんな音楽でも聴かなきゃ！と思います。聴いたら別の世界に行けます。幸せです。この世界から離れていける気がします。ストレスや嫌なことがあっても、音楽を聴いていると全て忘れられます。特に大好きな歌を聴いたら、音楽の世界に入り込めるし、幸せな気分になります。その次に大切なのは友達とのおしゃべりです。人生で1日だけでも、友達としゃべれないと寂しいです。私は寂しがり屋です。最後に大切なのは、以前 (7か月前) は暇になったら父母に電話しておしゃべりしていたんですけど、今は時間があれば、とりあえず電話じゃなくて寝てます。なぜかという寝不足なんです。今は寝ることが一番したいことです。このように変化した理由はよくわかりません。ずーっとそんな感じになってたんです。実習していて宿題があるんです。こういう状態が続いているから、空いている時間は寝たいんです (笑)。」

>> WIFY2 「あなたが暮らす地域を振り返ったとき、大切なことは何ですか？ 現在だけでなく、この7か月間の変化について、気づいたことを語ってください。」

A 「以前は大切なものとしてスーパーマーケットを挙げましたが、今回は海・森に変えました。友達と一緒に活動しています。デパートに遊びに行くより、海や森に行く旅行の方が、多くの活動ができるので、旅行に変えました。いろいろな場所に行ったり、人と会いますが、変わらないのは家と大学だけです。(笑) 変わらないのは家です。いつも家がとてなつかしいです。父母とおばあちゃんに会いたい。一番好きなのは、家で、それから順番になっています。(笑) 家はいつでもなつかしいので、この気持ちは変わらないです。うーん。家より好きなのはまだないので、家が一番です。映画も好きなのでいつでも観たい。家に帰ってきて同じことをやっています。だけど、何をやっていても家にいるのが一番幸せです。場所が変わると家にいるようにはいかないので、家にいるのが一番です。他の事はまだあまりやっていないので、基本は自分のグループと一緒にいます (笑)。また大切な場所として Siam Paragon のショッピングモールと書きましたが、例えばってことです。基本的にどこのデパートでもいいです。デパートやモールに行くのは好きです。いろいろなものが選べるし、涼しいからです (笑)。行っても、いろいろ選んで簡単には買いません。本当に必要かどうかよく考えて必要な買います。デパートで新しいものを見たりして、リラックスできます。でも、ほとんど買いません (笑)。雰囲気を楽しんだり、デートしたりするだけです (笑)。デパートに行けば、ストレスを解消できます。最新のファッションを知る事ができます (笑)。」

B 「最初に大切に思っていたのは植物です。私は緑色が好きです。自然をみていると心が爽やかになります。だけど、お寺が好きなことも思い出しました。美術も文化、アンティーク (古いモノ) が好きです。お寺に遊びに行くのが好きです。お寺は、他の場所より、美術や文化が体験できます。お寺は、色んなことを勉強できます。その次に大切なのは、子どもです。子どもと犬です。私は子どもが好きです。なぜかという、子どもって純粋だから。とてもかわいいです。大人みたいにたくさんの欲望がありません。次は、犬が好きです。私は、どこに行って

も犬がたくさんいてほしいです（笑）。最後に大切なものとしては、私は、以前はカフェに行きたいと思っていましたが、現在は公園に変えました。その公園はルンピニーです。以前、私はカフェでリラックスして美味しいものを食べたいと思っていましたが、今は走りたいです。自分の健康に気をつけたい。公園に行きたい。すごく行きたいです。でも実習があると行けません。今は、健康のためにマラソン大会に申し込みしました。また私はお寺に行って寄付しました（お賽銭）。こういうことを、親から小さいころから教わっていたから。自分も好きです（笑）。」

>> WIFY3 「あなたが住む世界を振り返ったとき、大切なことは何ですか？ 現在だけでなく、この7か月間の変化について、気づいたことを語ってください。」

A 「社会的に大切なのは、人々ではなく法律だ、と今は思う様になりました。ニュースなどをみていると、タイの今の社会は生活していくのが難しくなっていると思います。法律はあっても守られない事が多くあります。法律が厳しく守られない事が多いです。だから大事なものは、人々ではなく法律の方だと思います。旅行者のアトラクションとは、私が休みのときに行きたいところです。タイは、お金を払わなければ行けないところが多く、無料で楽しめる場所が少ないです。もっとみんなが楽しめる場所を作ってほしいです。外国の場合は多くのイベントがあって参加できるけど、タイは少ないので、もっと増やしてほしいです。外国での職場を挙げたのは、私が海外で仕事をしてみたいからです。まだ看護の勉強を続けていくなら、海外の病院で仕事がしてみたいです。給料も多いし、福利厚生も整っていると思います。もし行けるなら行きたい、どこでもいいです（笑）アメリカとかヨーロッパとか。最初に法律が大事だと言ったのは、タイは治安が悪く、泥棒や殺人、交通事故が多く、安全に生活できないからです。安全に生活できる社会になってほしいです。」

B 「最初、私は大切なものとして法律を挙げましたが、今回は法律を汚職がない（no corruption）に代えました。そう思いました（笑）。今の法律は、昔からあるけど、役に立っていません、たいしたことはありません。だから法律を変えたかった。でも、よく考えたら、法律を変えるより、汚職がない方が、国がもっと良くなるんじゃないかと思います。次に大切なことは平和（笑）。別に深く考えてないけど、ただ平和です。次は

インターネット。インターネットなんだけど、もっと高速なインターネットがあったらいいな。タイの国中で使えるような環境になったらいいな（笑）。残りの大切なこと2つは、助けることと人々（people）です。お互いに助け合うことです。世界でも自分の国でも、そうになったらいいな（笑）。大切なこととして最初にインターネットを挙げたのは、それが便利だからです。今の時代は、全てインターネットを使って色々しています。どこに行っても、買い物でもインターネットは必要です。外国と比べたら、例えば日本とくらべたら、タイのインターネットはものすごく遅い！ 私は海外に行ったことないです。でも、聞いたことはあります。海外の方が、こっちよりすごくいいらしい（笑）私はこのくらいです。」

Ⅵ タイ王国での20年間の社会変化を振り返る試み

以上で、学生たちは最近7か月に感じた変動を、WIFYを通して語ってくれた。ではより長い期間、例えば10年20年といったタイムスケールでタイの社会の変化を学生たちに語ってもらうことは可能だろうか。今回のような若者たちに、自らの幼少期まで遡って社会の変化を振り返ってもらうことは、容易ではない。しかし何らかの支援があれば、ある程度は可能かもしれない。そこで以前（1999年12月）に筆者（守山）がWIFYの原型で得た「当時の学生の発言」をまとめた表（表1）を、今回の学生たちに配付し、今の自分たちのWIFYと比較してもらうことを試みた。

18年前、筆者はWIFYの原型を開発したばかりであり、まず質問した後には共有・交流するなどの手順の細部は確定していなかった。また子どもから学生に対象者を変えたときに、質問の細部でどのような言葉を用いるかなども、吟味が十分ではなかった。しかし筆者は、当時、偶然にタイのランパーン大学でのワークショップに出席する機会があり、そのころ小学生に用いていたと同様のWIFYワークシートを用いて、ランパーンの学生たちにWIFYを聞いた。

表1に示した内容には、タイ北部の中都市ランパーンでの20世紀末の生活が反映している。他方、今回のWIFYに反映しているのは、大都市バンコクを中心部での現代の生活である。21世紀の現代に生きる学生たちが表1を見て「昔のこと、田舎のこと」などと捉えてしまったら、自らと比較してのリフレクションは期待できない。しかし今回の学生たちに表1を配付したところ、そこからさらに学生相互の交流が始まり、また学生たちはタイの社会や時代の変化についても語り始めた。

ここからは全員の学生（10名）が語った内容を発言順に示す。

表1. 1999年, タイ, 看護学生のWIFY (Thailand, nursing students' WIFY December, 1999)

No.	WIFY1 Daily life view	WIFY2 Community view	WIFY3 World view
01	money, eat, learn, study, sleep	mother, father, school, air, clean	king, money, economy, people, religion
02	sleep, friends, food, telephone, money	parents, friends, communication, study, money	king/queen, government, communication, population, economy
03	food, money, family, social, friend	mother, brother, friend, teachers, study/learning	king/queen, government, economic, environment, Y2k
04	school, food, money, friends, water	father, mother, sister, communication, environment	king, queen, economy, government, y2k
05	exercise, eat, sleep, entertainment, study	father, mother, school, friendship, picnic	good government, king, personality, communication, health for all
06	bath room, food, school, money, sleep	father, mother, friend, hospital, telephone	king, queen, Buddhist, government, environment
07	food & water, talking, telephone, television, sleeping	parents, good neighbor, computers, telephone, hospital	Buddhism, money, electrical, cars, builds
08	food, education, friends, money, sleep	parent, works, friends, social, money	king, queen, environment, economy, social
09	money, food, exercise, college, sleep	family, communication, friend, work, disease	king/queen, people, environment, government, economic
10	learning, clean water & food, television & telephone, money, sleeping	relationship, father, mother, friends, nation	Buddhism, king and queen, economic, LAN, people
11	sleep, food, exercise, study, friends	family, money, hospital, friends, IMF	Buddhism, flak?, the king, internet, y2k
12	food, study, friend, radio, sleep	family, school, market, hospital, friend	flak?, the king, Thailand, communication, Buddhism
13	food, money, study, sleep, shopping	family, temple, hospital, market, school	forest, river, communication, internet, king of Thailand.
14	exercise, food, study, money, sleeping	father, mother, sister, friends, hospital	king and queen, environment, people, religion, economic
15	study, food, music, friend, money	family, love, hospital, school, market	mountain, ?, internet, information, map
16	friend, cars, money, food, sleeping	relationship, mother, father, friend, communication	people, Buddhism, law, king, farmer
17	food, water, learning, mother/father, house, sleeping	relationship, hospital, police, the bus, money	king, law, communication, peace, government
18	study, watch TV, food, sleep, meeting friends	family, market, hospital, school, internet	Thailand, Buddhist, the king, mountain, water-fall

>> 「現在は2017年、それに対して18年前の1999年に、当時のタイの看護学生19名に聞いたWIFYのデータを配付します。この18年前のWIFYと、あなたの現在のWIFYとを比較した上で、タイの社会の変化について思うことがあれば、語ってください」

「タイの社会は競争が激しいです。私が高校から看護大学へ入学するときも、現在もみな競争しています。成績やテストでもいつも競争しています。友達や仲間でも同じです。いい点数を取るとか、NO1になるとか、いつも話をしています。これが私の考えです。」

「国が頑張っていていくのを見たり、友達が成長していくのを見たりすると、私ももっと頑張らないといけないと思います。私はだれかと競争するので

はなく、私に勝たなければならないです。自分の目的をもって、その目的を達成することが自分の満足につながります。」

「タイの国も首相が優秀であれば、もっと国が発展すると思います。汚職や環境をもっと改善してくれたら国はもっと良くなると思います。前の首相と比べれば、今はよいと思います。国民に何の政策を行うのか説明してくれています。今までは、何の説明もなく、自分たちが勝手にやっていて、国のお金がどうなっているのか、どう管理しているのか、まったくわかりませんでした。」

「わたしは昔は王様と奥様の2人が大事だと思っていました。そして私は自分のことしか考えていませんでした。でも今は、みなすべてつながっており、なんでもわかるようになっていて、王室だけが大事

ではなくなっています。この考えは不敬罪ではないです。今は、わたしはもっと王室に協力して、もっと王室を強化しなければならないと思っています。」

「自分が5歳の時、プミポン国王60周年記念式典に行きました。みな黄色のシャツを着て、ラマ5世広場に集まり、とても豪華で素晴らしいと感じました。私が成長していくにつれて、その時の感動はなくなり、国も大したことないと思うようになりました。王様も年を取り入院したり、出てこなくなったりして、みな大事にしなくなっています。」

「前はみな王様や王室がNO1と思っていましたが、今は心のよりどころは王様ではなく、他のことになっています。でも尊敬しているけど、NO1ではないです。」

「王様と奥様についていえば、20年前は王様も元気で活躍しており、国民もその姿をよく見ていました。今は王様も年を取り病気がちで、姿を見せなくなっています。昔ほど尊敬する気がなくなっています。今の人は王様が何かするのを自分の目で見ていないので、そうになっています。」

>> 「仏教・宗教についてどう思いますか？」

「私は宗教が精神的な支柱となっています。うまくいかないときや心構えができていないときなど、宗教があれば心が落ち着きうまく解決できるからです。」

「宗教は仏教だけとは思いません。最近はお坊さんの悪いニュースが多く、昔ほど信仰する気持ちがなくなってきました。私はどんな宗教に対しても、心を開いています。キリスト教も好きです。でも仏教を捨てることはありません。」

「私は仏教ですが、すべてを信用しているわけではなりません。他の人が信じていることをバカにすることはありません。自分のやり方で信じています。仏教の戒律の8番目は夕方の断食ですが、なぜでしょう。戒律の5番目は禁酒ですが、なぜでしょう。私は善い行いをすれば報いがあるということを信じています。『自分が信じることを信じればよい』ので、極端に偏ってはいません。だから、書くほどのことはないと思っています。」

「私は、仏教のみを信じているわけではありません。お布施をしてもしなくてもいいと思います。お経をあげても上げなくてもいいと思います。それぞれのやり方でいいと思います。私は座禅は好きではありません。じっと座っていることはできません。足が痛くなるだけです。お寺で行事があるときは手伝いに行きます。しかし、昔と比べたらしくなっています。私は人を苦しめることはしません。自分のやったことは、また自分に戻ってくると信じています。」

「社会の情勢が変わったと、私は考えています。昔は皆、家、お寺そして学校でつながっていました。みなとても親近感があり、共同体の中で暮らし

ていました。子供たちもそんな考えを教え込まれていました。今はほかに楽しく目を引くことがたくさんあります。テパトやその他のものがあり、お寺に関心が薄くなっています。お寺は今は観光の場所になっています。精神的な支柱ではなくなっています。」

「私にとって、大切だったのは宗教です。昔は宗教は具体的な（具象的な）ものでした。お寺に行くとき式典があったり、修理したり仏像を作ったり、とても具体的なことでした。でも今は、抽象的で、実行を強調しています。だから今は仏教を尊敬する気持ちが少なくなっています。宗教のやり方が変わっています。昔は拝んだり、良いことをすると天国に行けると思っていました。今はそんなことをしても幸福になったり天国に行ける、とは思っていません。友達も同じ考えです。自分のやっていることを、ほかの人に知ってもらう必要はないと思います。昔の人は自分の子どもがお坊さんになると、皆に自慢していました。今は、みな悩んでいるとき、森の中で座禅することをしますが、お金を寄進することはしません。これは、わたしの考えです。」

VII まとめ、WIFYとは何か

本試行の性格は「IIアプローチの考え方」で述べたごとく、研究ではなく、タイでの（一部は日本での）取材報告であり、赤十字の大学で学ぶ学生たちが「ひとりを見る目、その目を世界へ」の標語のもとで、グローバル社会を見通せる教育ツール開発である。ツール開発の出発点はWIFYの考え方であり、そこから得られた学生たちの貴重な発言は、今後の教育に生かせる教材と位置付けられる。筆者らは、研究者としてよりも、学生の自省と交流を支援するファシリテーターとして本試行に関わった。

ではこうして実用化に至ったWIFY自体は、どのように評価されるだろうか。タイ赤十字看護大学での2回目のインタビューでは、最後に「WIFYについてどう思うか」を学生たちに語ってもらった。

>> 「最後にWIFYという質問について、またワークシートについて、どう思うかを語ってください。」

「私はWIFYの質問から、自分を振り返っていません。なぜなら、あまり考えずに、義務的に、今まで生活していましたが、今は何が大事か、家族、勉強、友達、食事、身体などを考えています。他の人の意見を聞いています。WIFYへの答えは、人によって違いがあるのがとても面白いです。同じ仲間でも答えが全然違っています。解答用紙を見て、とてもびっくりしました。考えが本当に違っています。本当に人によって変わっています。自分のことも合っています。だから面白いと思います。」

「WIFYに対するひとの見方はいろいろあります。WIFY1に対する看護大学の学生のしたいことは、休憩するというので、同じ答えは(SLEEP)で

す。私はWIFYをした後、自分のことを何回か反省しました。他の人の考えていることがわかりました(笑)。最初のことが自分のことです。時間が経過すれば考え方も変わります。今は3年で卒業できるか、4年で卒業できるか大事に思っていない。絶対できると思います。今は成長して、時々、5年や10年先の将来の人生を考えています。『他の人が自分のことだけを考えているのか、周りのことも考えているのか』ということを考えています。』

「WIFYとは一体何ですか?なぜ一つの質問なのに、いろいろなことを思い出させて、考えさせます。1つの短い質問なのに、人生を振り返って考えさせるのは、すごいことだと思います。たった短い質問なのに、答えがばらばらで、今まで思ったことがないことを思い出します。例えば、何が大事なのか、自分でもわからないことを考えます。(笑)いいです。』

「WIFYによって、自分の考え方が整理できました。毎日の生活の中で何が大事なのか、順位付けができました。自分にとって何が一番大事なのか、本当に大事なのかわかるようになりました。20年前の考え方は、時間の経過とともに、今では大きく変わっています。自分の6か月前とは変わっています。時々自分が選んで変わるし、他のことが人でもわかることもあります。』

「WIFYは、いいと思います。友達と同じです。同じ質問なのに、人によって答えが全く違います。私は人の考えを知ることが好きです。一人の考えは狭くなりますが、ほかの人の考えを聞くと参考になります。たくさんの友達の考えを聞いていると、私が考えもつかないことを考えたりします。質問を1人だけで考えて書くと、自分だけの考えになります。それは無駄です。みなで集まって話をすると、ほかの人の言っていることがわかります。Sちゃん(友達の名前)の考え方が自分の考えと同じです。時代時代の考えは大事ですが、それも変わります。環境やテクノロジーが変われば、人の考えも変わってきます。時代が変われば人の考え方も変わります。』

Ⅷ 結論

結局グローバル化とは何だろうか。20世紀末、経済活動のグローバル化がまず生じたことから、いまだにグローバル化を経済と関係づける議論が多い。辞書⁷⁾をみると「国家などの境界を越えて広がり一体化していくこと。特に、経済活動やものの考え方などを世界的規模に広げること」とある。では実際に「境界を越えて広がる、一体化する」とはどのようなことだろうか。

本試行では、WIFYを問いかけることで、学生一人一人が、自分がこれまで住んでいた世界の境界に気づき、それを広げ、新たな広がりの中で、自分の位置を再定位し、また他者の多様さに気づいてゆく過程が明らかになった。こうした過程こそが意識

のグローバル化であり、「ひとりを看る目、その目を世界へ」の具現化ではないだろうか。

WIFY(WIFY-LRNW)は短期間の生活変化を言語化する上でも、またグローバル化の状況を意識化する上でも、有効であることが示唆された。

それぞれの国において、学生たちは環境・社会・文化・健康など多様な次元での変化・グローバル化を経験しているが、通常は、本人自身が変化を意識化できていない。双方の国で、さまざまな機会にWIFYを問いかけることにより、学習者の視野が広がり、世界と自国地域を同時に意識し、自己と他者の存在に覚醒するグローバル化が進むことが期待される。

WIFY-LRNWは本学の学生に対しても、タイの学生に対しても、生活・健康・環境を振り返り、またそれらを批判的に意識化する上で有効である。

謝辞

WIFY-LRNWの開発においては、タイ赤十字看護大学の先生方、特にPreyarat Rattanaviboo氏にお世話になった。また本研究は「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成(平成29・30年度)」により助成を受けた。記して御礼申し上げる。

利益相反

利益相反なし。

文献

- 1) Moriyama, M., Suwa, T., Kabuto, M., et al.: Participatory assessment of the environment from children's viewpoints: development of a method and its trial. *Tohoku Journal of Experimental Medicine*, 193 (2): 141-151, 2001.
- 2) 守山正樹: WIFY: 生活の中から言葉を育て、生活世界の多様性を学ぶ. 福岡, 福岡大学医学部公衆衛生学教室, 2002. <http://hdl.handle.net/20.500.12001/11082>
- 3) Moriyama, M.: Health promotion through rediscovery of one's sensibilities of health: the Lifemap and WIFY Methods. *Global Health Promotion*, 17 (2): 44-47, 2010.
- 4) 脇丸夕佳, 八代利香: 倫理カンファレンスにおける看護師のファシリテーションスキル. 日本看護倫理学会誌, 11 (1): 40-49, 2019.
- 5) 日本新聞協会. “新聞の公共性と役割.” 2013. https://www.pressnet.or.jp/keigen/files/shimbun_koukyousei_yakuwari.pdf. (参照 2019-08-10).
- 6) 看護学教育研究倫理検討委員会. “看護学教育における倫理指針.” 日本看護系大学協議会. 2008. <http://www.janpu.or.jp/umin/kenkai/rinrishishin08.pdf>. (参照 2019-08-10).
- 7) デジタル大辞泉. 小学館. 2019.

Report

Development and application of educational tools that enable students to gain a glocal perspective; an attempt to learn from the Thai students' worldview

MORIYAMA Masaki¹⁾ SUZUKI Seiji¹⁾ YAMAMOTO Koji¹⁾
SUGAWARA Naoko²⁾

In this study, we focused on nursing students in Japan as well as students in the Kingdom of Thailand, which has developed as the core of Southeast Asia, and tried to develop educational tools that can help both country students to critically reflect their view of environment and world to attain glocal perspective. The starting point is WIFY (What is important for you?), a dialogue-induced question series that originally explores the child's view of the environment, proposed by Moriyama in 1998. This time, in May 2017, we prototyped WIFY and started to improve its applicability to nursing students by trial implementations to our Japanese first year students. In June 2017, under the assistance of partners in Thailand, we finally completed WIFY-LRNW (WIFY-living reflection and narration worksheet). In August 2017, we visited Thailand and interviewed 10 Thai students using WIFY-LRNW. In March 2018, we visited Thailand again and interviewed the same student. WIFY-LRNW helped students to reflect and talk about changes in life and society over the past seven months in Thailand. WIFY-LRNW was effective for introspecting and verbalizing social and environmental changes as well as being aware of the globalization situation. By asking WIFY-LRNW in both countries, it is expected that the learner's perspective will grow and expand.

Key words: world view, critical consciousness, educational tool development, Thailand, nursing students

1) Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing
2) Japanese Red Cross Nagoya Daini Hospital